

令和元年8月23日（金）

地域支援センターさくらぎセミナー



テーマ

「精神性の疾患や発達障がいのある児童生徒の 自己理解を促進するための支援」

今年度のセミナーでは、講師に宮城教育大学の植木田潤先生をお迎えして講演会を開催しました。

8月末の第2学期始業日や直前にもかかわらず、地域の幼・小・中・高校、特別支援学校などから、55名の参加がありました。



講師の植木田先生



講演会の様子

講演の紹介

初めに認知特性の一般的な傾向を整理しながら、発達障がいの認知の偏りとそこから生じる様々な課題について、お話ししていただきました。

続いて「こころの免疫力＝レジリエンス」を高める支援のポイントとして、①よき対話相手を確保すること、②対話を通して自己理解を深めること、の2点について、先生が関わられた具体的な事例をもとに詳しく教えていただきました。

植木田先生、ありがとうございました。

～参加者の感想から～

- 発達障がいのある子どもの認知の特異性等や、どうかかわるといいのかがよくわかりました。ありがとうございました。（小学校教員）
- 見えにくい、わかりにくい部分を、とても身近な例に挙げて話をしていただきよく解りました。今回の話を校内で共有し、生徒のためになるような体制を整えられたらと思いました。（高等学校教員）
- 目の前の子どもの行動の見方、捉え方を見直すことができました。捉え方が変わると自分の気の持ちようも変わり、子どもへの対応も自ずと変えることができるように感じました。（特別支援学校教員）



御参加いただき
ありがとうございます。
ございました。